森の名手・名人シリーズ 44

名人 石原 英和（80）
岐阜県美濃市

聞き手 長屋 徹
岐阜県立郡上高等学校3年
平成26年取材

「森の名手・名人」とは、森に関わる仕事や地域生活に染み込んだ営みのうち、優れた技をもってその業を極め、他の模範となっている達人で、毎年、全国で約100名が認定されています。岐阜県においては、現在、50名の「森の名手・名人」が認定されています。

この「森の名手・名人」を「森の"聞き書き甲子園"」に参加した高校生が「聞き書き取材」をしたものの中から誌面の関係上要点を抜粋したものです。なお、年齢、住所、学年は取材当時のものです。

紙漉き 限界に挑むチャレンジャー

本美濃紙は栃木県の那須楮を使う。那須楮は少し土佐楮より繊維が短くって細かいもんで、漉いたときに和紙の密度が濃いし、障子に光を通したときに非常に柔らかくいい光になる。

1. これが原料だよ

和紙として使うのは楮が一番多いね。本美濃紙以外は高知県の土佐楮で作る。この辺では、和紙は土佐楮がベースにある。土佐楮は、ある程度の繊維の長さがあって、長すぎず短すぎずやね。作りやすいし、いい物ができるというのが土佐楮の使われた理由やね。

土佐楮

那須楮

那須楮は15キロやと7万円くらい、土佐楮は20キロで5万5千円から6万円する。今楮は高い。収量も少ないもんで、中国に楮を持って行って栽培して、また輸入する人がおる。土佐楮や那須楮以外にも今は外国産のほうが多いかもしれん。安い和紙を作ってくれていう人には、外国産の原料を使う。今は中国から輸入してくるでしょう。そうすると、楮も作っとる人が少ない、需要も少ないもんで楮が売れなくなる、悪循環やね。

雁皮は原料の中で一番繊維の長さが短い。だから、雁皮で紙を作るとシャリっとした紙ができる。その次に短いのが三椏。

三椏は、全国で一番栽培されとるかもしれん。栽培は難しいけど日本のお札を作っとるもんで、岡山県とか高知県で栽培しとると思う。

これは、トロロアオイ。昔は乾くところに置いといてかんかんに乾かして水に浸して叩くんやけど、今はクレゾールっていう消毒液があるもんで、それん中につける。ある程度乾かすと薬の浸透がいいやら、乾いた分だけいい。大きな蔵の中に保存して1年あるようにして使う。毎年30キロを5つくらい。高くはなっとるわね。

2. 和紙はいろんなものに使える

伊勢の型紙

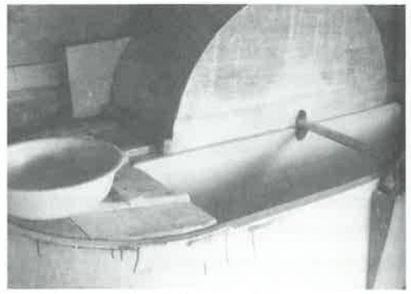
着物を染めるときの伊勢の型紙、友禅って型紙を楮で作る。京都の染め屋さんが使われる紙を私が、伊勢の型紙屋さんに持って行く。それから、京都の染め屋さんが型紙を使って模様を彫刻して友禅の型紙を彫るっていうことで、非常に繋がりがあるわけね。染めの柄をつけたときに粗いと途中から染料が漏れよる。それで、密度の濃い紙作ったらんとあかん。だから難しいところがある。

3. 和紙の最初はね

最初はね、産地から原料を買う。今私のとこは高知県から土佐楮や栃木県から那須楮を買っとる。買った原料を昼夜水に浸す。そしたら、釜に原料とソーダ灰を入れて、だいたい3時間から4時間煮る。ほんとにいい紙作ろうと思ったら、火力が柔らかい、松を割った木で煮る。

それから、塵取りっていってね、不純物を原料から取り除く。次に塵取りした後の原料を叩いたり、ビータっていう機械をかけたりして、細かくして繊維だけにする。

そしたら、仕事場の船に細かくした原料と、トロロアオイっていう紙を漉くための補助剤を入れる。トロロアオイの根の粘液の性質で、船の中に水を入れても原料は沈まない。漉いたばかりのドロドロした紙を1枚1枚重ねたり、ジャキ台でプレスして水分を絞ってもはがれる。ジャキ台でドロドロの紙の水分を絞ると水が出てきて細い繊維が絡まったやつが残る。それを1枚1枚はがしてハケを使って板に張り付けて外で乾かす。そしたら製品の大きさに切る。



ビータ（細かくする機械）

薄い紙を漉くには、1分から5分かかるかもしれんし、1日漉いても100枚漉けん紙もあるし、300枚漉ける紙もある。和紙の原料を煮たら1日や2日おいてから1日くらいは塵取りをせなあかんし、塵取りをしてから細かく繊維だけにして、漉くのに1日かかって、干すのに1日かかるでしょ。できるまでには、4日か5日かかるってことやね。

4. 道具の職人さんのおかげやね

まず、紙を漉く道具はこの木の枠が桁っていうのね。細い竹を絹で編んだのが簾。桁や簾を作る職人さんが別々にみえる。

桁

桁で水を汲むでしょ。まっすぐに平面を作るとなると真ん中に水の重さが加わると紙の真ん中が厚くなる。そうならんように作らなあかんもんで、桁の下の面に針金があるでしょ。横から見ると真ん中の針金が多少膨らんどる、これが水を汲むとまっすぐになるようになる。これで、調整しとる。桁を作るにも技術がいるんやね。

5. 和紙の最終工程の紙漉き

今日は、伊勢の型紙を漉いとる。型紙の基準のサイズは縦60㎝の横90㎝で、注文によって多少小さいとか大きいとかあるけど、用途によって異なる。本美濃紙のサイズは、もうちょっと大きくて縦64㎝の横97㎝。

今使つとる大きい桁だと、紙を漉くときには、水が重くて漉けん。こんだけ持っちょると、普通やったら重くて下に落ちるやら。そんで、竹にひもをつけて桁をつって、竹の力を利用しながら漉くもんで、そんなに力は入れん。そんで今の漉き方は、流し漉き。流し漉きは何でもできる。用途によって紙をどういうふうに流すかってことが違う。揺らし方が違うと、表面は変わらんけど、この揺らし方のほうが紙の目が細かく、密度が濃くなる。用途によってこれが一番いいなっていう漉き方を昔の人から受け継いどるだけで、私が工夫することはない。だけど、今までにない新しい紙が注文来たときは、自分で工夫して漉く。

紙漉き

6. 原料補給やね

今入れたのは、楮を細かくしたやつ。今漉いとる薄い紙は、60枚漉きあげると中の原料がなくなるもんで、入れる量を変えてかなあかんやら。1回に入れる楮の量は、今漉いとるぐらいの厚さの紙を作るときはこのぐらいいれるという自分の目安。長年やっとるとこのくらい入れるとこのくらい漉くってことがわかっとるもんで、そんなに大変な話じゃない。

原料を入れてかき混ぜるのは、こんだけが動力化したんだよ。3分間やると2-10回混ぜる。トロロアオイがはいったやら。こうやって混ぜると、腕にかかる力で粘りがこんでいいかなってことが、だいたいわかる。こんで、1枚漉いてみて、足らなんだら補給する。

7. チャンピオンじゃない

美濃市の牧谷小学校の子供たちに、はがきや世界に1つだけの卒業証書を自分に漉く活動を、もう26年やっとる。それと長いこと紙漉きやっとったもんで、瑞宝単光章をいただいた。こういうものは絶対に1人ではもらえるもんじゃない。みんなの支えがあったからもらえるもんやと思う。

ユネスコの無形文化財に本美濃紙、埼玉県の細川紙、島根県の石州半紙が指定を受けたけど、これからもやっぱり、お客さんに喜んでいただけるものを作るっていう気持ちが一番大事やと思う。

昔、岐阜提灯の薄い紙漉いとったんじゃわ。そしたら石原さん、こんな薄い紙漉けるのはチャンピオンやねって言われたけど、私はチャンピオンじゃなくって常に限界に挑むチャレンジャーじゃないと駄目やと思う。チャレンジ精神がないと人間は成長が止まるというかね、絶えずどんな物事にも挑戦していく。チャレンジということは先を見るってことやで、できんかったらできるまで挑戦して、できたら、そこから先に一層よくなるように作っていくっていうのが職人やね。

名人 石原 英和さんのプロフィール

- 生年月日：昭和10年3月14日生まれ
- 職業：和紙製造業（紙漉き職人）

美濃市上野において15歳の時から紙漉きに携わり、国重要無形文化財に指定された手すき和紙の技術を有し、平成26年にユネスコ世界文化遺産に登録された「本美濃紙」を漉くことの出来る「本美濃紙保存会」の会員であり、伝統技術の伝承と後継者の育成に尽力している。こういった業績が認められ平成26年に瑞宝単光章を受章した。

平成元年から美濃市立牧谷小学校で、自分で漉いた美濃和紙による卒業証書作りを指導するなど、地域の伝統文化の承継に貢献している。

※原本は長文のため、文章の一部を割愛しています。

【森の名手・名人編集担当
公益社団法人
岐阜県緑化推進委員会　専務理事　黒崎隆司】

謄写版原紙

昔、東京の堀井謄写堂ってとこが、雁皮で印刷をやったのね。学校のテストなんか先生が自分で作ったのね。謄写版原紙に問題を書いて、印刷したわけ。謄写版原紙っていうのは、紙に升目を作って、印刷してそれから蝋がひいてあるでしょ。その升目に沿っていろんな字が書ける。日本で漉いた、その紙は非常に性能がよくって、輸出して世界を席巻したことがあるんやね。

本美濃紙

本美濃紙は障子や提灯のために明かりを通す紙が求められるから、薄くてきれい。栃木県の那須楮を使って、強い薬品を使わずに漉いて、お日様に干す。本美濃紙保存会の会員じゃないと漉いても本美濃紙とは言われんのよ。

箔間紙

箔間紙は、お仏壇に使う金箔を保護する紙。箔間紙は、原料もちゃんと決まっているの。三椏を100％使うのね。その代わり、これは、薬品を使わずに石灰を使って柔らかく煮る。ソーダ灰も駄目なの。金箔と重ねておくと薬品使ってあると箔が変色する。買ってから10年おいても20年おいても変わらないっていうのは、その製法でしか駄目ってことなのね。箔間紙ばっかりうちんとこは昔20年くらい漉いてた。